

## 【秋田市】 校務DX計画

秋田県では、校務のデジタル化により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保するとともに、介護や子育て中の教職員の働き方を柔軟化して、負担を軽減することを目指し、令和5年度、フルクラウド型の秋田県小中学校等統合型校務支援システム（以下「統合型校務支援システム」という。）を構築しました。県域で統一したシステムを、将来的には全市町村で導入する予定になっています。

秋田市では、「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「G I G Aスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、統合型校務支援システムを現在利用中の校務支援システムの更改時期である令和11年4月から導入することとしています。統合型校務支援システムの活用により、有事の際でも、教職員・児童生徒の安否確認、オンライン授業で学びを継続させる等、優先度の高い業務の継続性を推進するほか、保護者連絡システムでの欠席等情報や、学校等欠席者・感染症情報システム等とのデータ連携により、手入力作業の大幅な削減に取り組みます。統合型校務支援システムでは、県共通テナントのアカウントを利用することから、汎用クラウドツールの共通化が可能となるため、学校関係者のコミュニケーションの活性化を図っていきます。

また、校務系・学習系ネットワークを統合することで、学習振り返り支援ツールと校務支援システムをデータ連携することにより、児童生徒の学習状況等をダッシュボードで可視化し、学習指導、学校経営や教育政策等の改善を図ります。多様な働き方の実現に向け、多要素認証等の強固なアクセス制御を前提としたセキュリティ対策の下、パブリッククラウド上のシステム活用により、ロケーションフリーでの柔軟な働き方の実現が可能となるようルールを計画します。

さらに、校務DXに合わせて、紙ベースの業務見直しや、FAXでのやり取り・押印の見直しも推進します。